

Series

## 私の漢方診療日誌

No.124 "怪談"真夜中のキッチンでガリガリと物音が…氷をかじる頭痛持ちに  
半夏白朮天麻湯、柴苓湯

暑くなると冷たいものが欲しくなります。しかし、度を過ぎた水分や冷たい食べ物の摂取は、脾胃を冷やし、体調不良の原因になります。今回は、こうした誤った食物摂取が体調不良をきたした例です。

Tちゃんとの出会いは小学生の頃、梅雨時の週末でした。生理時の激しい痛みで歩くこともできず、パニック状態で病院へ担ぎ込まれてきたのです。「痛いよー、痛いよー、早くとめてー。」と泣いているものですから、普通の鎮痛剤では間に合わないと思い、芍薬甘草湯(TJ-68 シャクヤクカンゾウトウ)を処置室のベッドの上で、一包飲んでもらったのです。紙コップの水で、薬を飲んだ彼女はあまりのまずさに半分吐き出しましたが、その後数分で痛みがうそのように消え、症状が落ち着きました。芍薬甘草湯は、子宮平滑筋など筋拘縮・攣縮を伴った痛みにも内服後平均 6 分で効くという報告があります。診察上は、臍傍圧痛、ソケイ部の圧痛があり、瘀血と冷えが疑われました。小学生なのに、普段から肩凝りと腰痛もあるということでした。また、全身の発汗が多く、舌が白く歯痕があり、下肢にも軽度の浮腫を認めたため、水滯傾向もあると考えられました。こうした冷えや水滯傾向のある女の子は、同じ生理痛でも梅雨時とか雪の降る季節は、症状が重くなると訴えます。このときは、救急受診でもあり、生理痛の治療だけで終わったのですが、その後、夏休みになって、別の訴えで病院にやってきました。今度は、朝の激しい頭痛と吐き気、めまいで起きられないという症状でした。診察上、舌がますます冷えて白くなり、歯痕もくっきり残っていました。胃のあたりにはちゃぼちゃぼと振水音がして、下肢に浮腫もみられ明らかに水滯が悪化していました。さらに、お腹を触っただけでも、周りの皮膚より冷えているのが感じられました。診察しながら話をすると「のどが渴かない?」「うん、渴く、渴く。」「何飲むの?」「麦茶とか。」「氷入れてない?」「入れるけど。」と予想通りの答えです。さらにお母さんが、「先生、この子、氷をたくさんかじるんですよ。夜中にキッチンで物音がするから、びっくりしてのぞいたら、真っ暗な中で冷蔵庫を開けて、氷をガリガリかじってるんです。」この時の光景は、昔ばなしの「食わず女房」に出てくる妖怪二口女ー米びつを開けて頭の口から米をバリバリ食べている女房を見てしまった旦那さんの驚きに匹敵

したのではないのでしょうか。ともかく、夜中に氷を食べたら、脾胃も冷えますし、水滯が悪化するの当たり前です。この場合の治療としては、利水剤の成分を含む柴苓湯（TJ-114 サイレイトウ）と瘀血をとる桂枝茯苓丸（TJ-25 ケイシブクリョウガン）を1包ずつ朝晩飲んでもらいました。特に頭痛が強い場合は、頓服として五苓散（TJ-17 ゴレイサン）を使ってもいいこととしました。もともと柴苓湯は、小柴胡湯と五苓散の合方ですが、利水作用を持つ五苓散を症状に応じて追加投与できるようにしたのです。こうして、頓服を持っている安心感で、かえって頭痛が和らぎ、結果的に頓服の必要性が減ることをしばしば経験します。



今回の症例は、利水の目的で柴苓湯を投与しましたが、同じ症状で半夏白朮天麻湯（TJ-37 ハンゲビャクジツテンマトウ）をたびたび使います。病態としては、脾気虚の痰濁上擾（じょうじょう）です。もともと、胃腸が弱い人が、夏の暑さでつつい冷たいものを取りすぎ、脾胃を痛め、水毒に陥り、頭痛やめまいを起こすときに効果が見られます。問診のポイントとしては、夜間に冷たい水分を欲しがらないか、氷をかじらないかという点です。もちろん投薬以前に、こうした悪しき習慣を断つのが最善の治療です。

夏の蒸し暑い真夜中、誰も見ていない真っ暗なキッチンで氷をかじる若い娘さんの、背筋とお腹がヒヤッとするお話でした。